

## 「仏弟子の誕生ということ」

第7組 眞福寺 黒田 美法

先月、9歳の息子が京都の東本願寺にて得度式を受式いたしました。得度式とは、僧侶として歩みはじめる最初の儀式です。

一生懸命『阿弥陀経』や「正信偈」の練習に励んでおりましたが、髪を剃らなければならないことが気がかりである様子でした。そんな息子を励ますため私は、

「お得度を受けるということは、おめでたいことで、よろこびなんだよ。」

と伝えました。すると息子は、

「どうしておめでたいの？」

と尋ねてきました。思わぬ問いかけに私は困ってしまいました。私も子供のころ得度式を受けたとき、たくさんの人から「おめでとう」という言葉をいただいたことを思い出します。けれど一体、それがどうしておめでたいことなのでしょう。なぜよろこびなのでしょう。か。「新たな一步を歩みだす儀式だから」と決まりきったこととして受け止めており、いざ息子に説明しようとしてもできない自分がいたのです。そのことについて、これまで深く考えてこなかったことに気づかされた瞬間でした。

お得度を受けるということは、仏弟子の誕生を意味します。つまりそれは、お釈迦さまのお弟子として生きる道が定まるということではないでしょうか。またそれは、すでにお釈迦さまのお弟子として歩んでいる人たちのお仲間に入れ

ていただけるということでもあります。このたび、息子が何人もの方からいただいた「おめでとう」には、「歩むべき道が定まっておめでとう」、そして「ようこそ、ともにお念仏申す身となっていきましょう」という意味がこめられているのではないのでしょうか。そのことこそ、本当によろこぶべきことなのでしょう。

日々生活していると、定まったはずの道が見えなくなってしまったり、自分がひとりぼっちであるような気持ちになったりして、よろこぶべきことをよろこべていない私があります。息子の得度式受式をご縁に、今改めて、私自身が、仏弟子として歩めているか問われています。

得度式は仏弟子としての歩みをはじめる最初の儀式であり、この儀式を受けるのは人生で一度きりです。だからこそ、今のこの気持ちを大切に、何度でも立ち返って考え続けていきたいと思えます。